

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992000016		
法人名	社会福祉法人にんじんの会		
事業所名	にんじんホーム・上野原		
所在地	山梨県上野原市上野原522番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年10月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がその人らしく暮らして頂ける様に、職員一同心がけています。  
入居者様の人格を尊重し、有する能力を最大限に活かし、維持して頂ける様に支援しています。  
また、利用者様やご家族様から伺った生活歴等を元に個別援助を行う事でより楽しみを持った生活で最期まで過ごして頂ける様にしています。  
地域に根差した開かれた施設を目指し、毎月認知症カフェ、8月には夏祭りを開催しています。  
また地域の大学・高校・中学校との交流があり介護体験等の受け入れも行っております。  
当事業所はグループホームの他に訪問看護・通所介護・小規模多機能型居宅介護などの事業を併設しており、他事業とも連携を密に取れるのが強みです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上野原市街の住宅地の中に地域密着型事業所として開設されている。同一建物の中の1階に通所介護事業所・小規模多機能型施設・訪問看護事業所が併設されている。2階が2ユニットのグループホームである。毎朝、1階の通所介護事業所と体操「だんだんダンス」を一緒に行い、機能訓練と地域利用者との交流を行っている。  
事業所の年次重点目標として「日常生活の中で個人の楽しみを増やし生活を豊かにする」を掲げて利用者の生活支援を行っている。認知症カフェ「はるカフェ」毎月第3木曜日に実施し、認知症への介護相談窓口や行事を行い、積極的に地域に働きかけをしたり、事業所の役割を果たしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。	法人で掲げている理念を、フロアや事務スペースに掲示し、目標に向かってミーティングや毎月のグループ会議で共有や確認を行っている。また、事業所としての目標「日常生活の中で個人の楽しみを増やし生活を豊かにする」も一緒に掲示し、6か月毎に職員全体で見直しを行い周知するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや認知症カフェを通して、地域の方々とも交流を図っている。また地域の自治会に加入しており、祭りへの招待を受け、参加している。地域の中学・高校生がコンサート開催やイベントにボランティアとして参加する等の交流がある。	夏祭りや認知症カフェを通して、地域の方々とも交流を図っている。また地域の自治会に加入しており、祭りへの招待を受け、参加している。地域の中学・高校生がコンサート開催やイベントにボランティアとして参加する等の交流がある。	2地区の自治会に入っている。広報や地区の回覧、各区长からイベントの案内が有り参加している。地域の育成会とも交流が有る。月1回の認知症カフェ(はるカフェ)では認知症について、福祉用具の使い方、介護技術等の研修会を開催、防災訓練等を含め地域と連携し活動している。地域の学校の介護実習、研修の受け入れも行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを毎月開催している。地域の回覧板等を利用して告知を行っている。また地域で開催している長寿会へも参加して介護保険制度の説明や認知症予防体操等を行っている。	認知症カフェを毎月開催している。地域の回覧板等を利用して告知を行っている。また地域で開催している長寿会へも参加して介護保険制度の説明や認知症予防体操等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、活動の報告を行い、入居者様やご家族、地域の方々や行政の方とも意見交換して、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、活動の報告を行い、入居者様やご家族、地域の方々や行政の方とも意見交換して、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議には入居者18名、家族5・6名、市担当者、区長2名、民生委員2名、職員5名の構成で行われ、2ヶ月ごとに実施している。事業活動報告、利用者状況報告、意見交換を行っている。後日、会議録の内容を配布し、関係者で周知することになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。	上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。	事業運営には市の介護保険課、地域包括支援センターとの協力体制がとられている。市が主催している月1回の地域ケア会議、各種委員会(認知症、身体拘束・虐待、生活困窮者他)に管理者・リーダーのいずれかが出席し、地域での情報交換と多職種連携を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観測して対応を考えている。また必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定した生活が送れる様に支援する。	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観測して対応を考えている。また必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定した生活が送れる様に支援する。	事業所が年2回身体拘束・虐待予防委員会主催の研修を行っている。職員向けの身体拘束啓発ポスターの提示やスピーチロックチェックシートで身体拘束防止の確認を行っている。スピーチロックに気づいた時は職員間で注意し合える関係が出来ている。また、入居者の安全確保のため転倒リスクの高い入居者に小型センサーを使用し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人が作成したマニュアルの活用や、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルを元に、虐待の防止に取り組んでいる。	当法人が作成したマニュアルの活用や、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルを元に、虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護についての理解度は向上してきているが、まだ不足している部分も多いと感じている。勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有を図る。	権利擁護についての理解度は向上してきているが、まだ不足している部分も多いと感じている。勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問などがあればその場で説明し理解、納得を得ている。	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問などがあればその場で説明し理解、納得を得ている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施。またその後には家族会を開催し直接意見を聞く機会を設けている。ご家族の要望には出来るだけ個別に対応して利用者様のQOL向上に繋げている。	2ヶ月に1回運営推進会議を実施。またその後には家族会を開催し直接意見を聞く機会を設けている。ご家族の要望には出来るだけ個別に対応して利用者様のQOL向上に繋げている。	入居者との普段の会話や表情から意向を察し、行事に反映させている。運営推進会議の後、家族の意向を聞く機会を設けている。夏祭りの出店周りをゆっくりしたい希望が有り、今年は家族と利用者のみ20分繰り上げて行った。また、希望外出時には、家族同行で河口湖や回転ずしに行ったりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所内ミーティングを開催して職員の意見を聞く機会を設けている。その中で法人全体の問題として取り上げる課題等はリーダー会議や事業所長会議に上げ、反映させている。また、法人全体として毎年利用者アンケートを実施している。	毎月事業所内ミーティングを開催して職員の意見を聞く機会を設けている。その中で法人全体の問題として取り上げる課題等はリーダー会議や事業所長会議に上げ、反映させている。また、法人全体として毎年利用者アンケートを実施している。	毎月行っているミーティングで必要とされる物品の購入や、行事に対しての意見を出し合い検討されている。特に行事は担当委員が計画書を作成している。提案された計画書は管理者や所長または法人での決裁で決定されるものもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業に関しては法人として規定がある。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労出来る様に努めている。	職員の就業に関しては法人として規定がある。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には知識・技能が習得できる様に計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。	新人職員には知識・技能が習得できる様に計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加、サービスの質の向上に努めている。また、他の福祉施設で開催しているアニマルセラピーや芝桜祭り等へも参加している。	地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加、サービスの質の向上に努めている。また、他の福祉施設で開催しているアニマルセラピーや芝桜祭り等へも参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の契約の段階でご本人のみならず、ご家族様からも要望をお聞きし、安心して暮らせる関係づくりに努めている。また、管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当職員が中心にコミュニケーションを積極的に行っている。	入居前の契約の段階でご本人のみならず、ご家族様からも要望をお聞きし、安心して暮らせる関係づくりに努めている。また、管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当職員が中心にコミュニケーションを積極的に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様からも要望をお聞きし、関係づくりに努めている。また、居室担当職員を紹介するなど、安心して頂ける様に努めている。	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様からも要望をお聞きし、関係づくりに努めている。また、居室担当職員を紹介するなど、安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできることはして頂く等、有する能力の維持向上に努めるとともに、職員と一緒に家事動作を行うなどしている。また居室担当を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践して関係を築いている。	入居者様のできることはして頂く等、有する能力の維持向上に努めるとともに、職員と一緒に家事動作を行うなどしている。また居室担当を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践して関係を築いている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族が来所しやすい様、イベントや日常の様子を定期的にご連絡を行っている。来所時に日常の様子を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けている。	○家族が来所しやすい様、イベントや日常の様子を定期的にご連絡を行っている。来所時に日常の様子を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○馴染みの方々にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じ広報するほか、可能な限りの外出支援に努めている。 デイサービスや小規模多機能等を併用している為、子供時代の知人等と交流する機会がある。	○馴染みの方々にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じ広報するほか、可能な限りの外出支援に努めている。 デイサービスや小規模多機能等を併用している為、子供時代の知人等と交流する機会がある。	併設の通所介護事業所や小規模多機能型施設の利用者が地域で生活されている方々であり、毎朝グループホームの入居者が一緒に体操「だんだんダンス」を行い交流している。また、地域で行っている行事やお祭り(盆踊り)に参加して、知り合いの人やご近所の人との交流も図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者様と共に一緒に作業をする等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。	○入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者様と共に一緒に作業をする等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○退居される等して契約が終了した元入居者様に対しても、必要に応じてフォローしている。	○退居される等して契約が終了した元入居者様に対しても、必要に応じてフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり入居者様の意向を把握するよう努めている。 ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族様とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様になっている。	○日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり入居者様の意向を把握するよう努めている。 ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族様とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様になっている。	○コミュニケーションが困難な方に対しては、本人の表情を観察したり、また、日常生活での様子からその人に寄り添う介護をしている。家族からの本人の様子を聞きながら生活支援を行っている。また、少しでも自分の気持ちを伝えることが出来る方については意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入居者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。	○入居者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○個人各自が、自由に過ごして頂く時間を設けている他、デイサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。	○個人各自が、自由に過ごして頂く時間を設けている他、デイサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○毎月スタッフでのミーティングを開催し、入居者様の現状について情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護計画を作っている。	○毎月スタッフでのミーティングを開催し、入居者様の現状について情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護計画を作っている。	○毎月のミーティングで利用者の状況を共有している。ユニットリーダーや担当制になっているが職員全体でモニタリングを行い、ケアマネジャーも加わって介護計画を作成している。家族からの情報も得ながら介護計画に反映させている。また、状態の変化に応じ、随時、計画の変更を行うことにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、職員間で情報共有を図っている。	○ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、職員間で情報共有を図っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所にも入居者様をお連れし体操やゲームをする等、入居者様本位のケアを心がけている。	ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所にも入居者様をお連れし体操やゲームをする等、入居者様本位のケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り地域の行事にも積極的に参加、有する能力を維持できる様支援している。	可能な限り地域の行事にも積極的に参加、有する能力を維持できる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居者様一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	入所前からの主治医をかかりつけ医とし、定期受診に際しては情報提供を行い医療連携を図っている。状態や症状により職員が同行受診をする事がある。受診できなくなった場合月2回の訪問医があり、診察を受けることが出来ている。併設の訪問看護や、往診歯科についても利用可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合、看護師と共にケアに当たっている。	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合、看護師と共にケアに当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、常日頃より関係作りを行っている。	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、常日頃より関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。(1件の看取り介護を実施)	入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。(2件の看取り介護を実施)	入所時に家族に対して終末期の対応や看取りについての説明を行っている。家族の希望により、担当医や看護と連携し看取りの実施をしている。看取りに対しての職員研修が行われていることと、職員ミーティングでも看取りに対しての周知がされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当て初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員も居る。経験の浅い職員をはじめ、全職員を対象にした訓練・勉強会を早急に実施したい。	急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員も居る。経験の浅い職員をはじめ、全職員を対象にした訓練・勉強会を早急に実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。	定期的な火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。	毎年3月と9月に防災対策訓練を実施している。今年の9月は地震対策の訓練を実施。10月も認知症カフェ(はるカフェ)の一環として夜間対応型の防災訓練を実施。参加者は消防署をはじめ、市・地域と連携して避難誘導を行っている。避難道具としておんぶラック、らくちんモックを設置してある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするよう心がけている。 写真の掲載等の利用は了承を得て行っている。	常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするよう心がけている。 写真の掲載等の利用は了承を得て行っている。	入居者一人ひとりの状態を把握し、表情を見ながらの声かけや、気持ちを表せるような声掛けとして方言を用いたり工夫を行っている。同性介護や利用者に向けた介護を心掛けている。個人ファイル等は書棚を施錠し保管している。「キャロット便り」への写真掲載は個人情報保護に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようになっている。また意思表示が困難な利用者様は表情から思いをくみ取る様になっている。	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようになっている。また意思表示が困難な利用者様は表情から思いをくみ取る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう家族にも話している。	季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう家族にも話している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回はイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。	毎月1回はイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。	朝夕食は職員が調理したもの、昼食は仕出し弁当である。食事の準備には一部の利用者も参加するようにしている。イベントごとに食事やおやつ作りの工夫がしており、敬老会には店に刺身(生ものの鮮度を考慮して)を頼んだり、誕生会の職員手作りケーキが入居者に好評で喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の確保については日々記録をとっている。水分については毎食時のみならず、10時、15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。	食事量、水分の確保については日々記録をとっている。水分については毎食時のみならず、10時、15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアもできる方には見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。	口腔ケアもできる方には見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人のADLに合わせてオムツやリハパン等を使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間やパターンを把握してトイレ誘導を行い自立できる様に支援している。	各人のADLに合わせてオムツやリハパン等を使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間やパターンを把握してトイレ誘導を行い自立できる様に支援している。	排泄行為の自立支援に向けて、立位のとれる人はトイレ誘導を行い座位保持にも工夫して対応している。排泄感染予防委員会があり、排泄用具の利用について一人ひとりの状況に合わせて行う方法を提案している。利用者のトイレへの訴えを見逃さないようにし、プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様にあった運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。	入居者様にあった運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。	入浴時間帯は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。	毎日入浴できるようにになっているが基本は週2回、午後1時～3時の間で有る。失禁等があった場合はその都度入浴することができる。入浴を嫌がる入居者にはタイミングを見て声掛けしたり、時間を変えて声掛けしたりしている。希望で入浴剤を使ったり、季節感のある入浴方法を取り入れている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のうち食事などの決まった時間以外は入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話した看護師とも相談の上、入眠導入剤を使用することもある。	一日のうち食事などの決まった時間以外は入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話した看護師とも相談の上、入眠導入剤を使用することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかり飲み込めた事を確認するように努めている。また状況の変化があった際には看護師とも連携を取るようになっている。	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかり飲み込めた事を確認するように努めている。また状況の変化があった際には看護師とも連携を取るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたんで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にこなしている。	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたんで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にこなしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施した。ドライブでは市内のお花の名所や河口湖まで行く事を行っている。また日常では天気の良い日には散歩も行っている。	地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施した。ドライブでは市内のお花の名所や河口湖まで行く事を行っている。また日常では天気の良い日には散歩も行っている。	季節のお花見やドライブに数人に分け出掛けている。家族の協力を得て昔馴染みの場所に出掛けたり、歩行困難な入居者でも車いすを使用し、気分転換や元気になれるよう、希望に添った支援を行う努力をしている。近隣の住宅街の散歩も外気浴を兼ねて日常的に行っており、近隣の方と気軽に挨拶を交わしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設ではお金がお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。	基本的に施設ではお金がお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。	基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。	共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。	2ユニットの共有スペースがつながっているため、ゆったりした空間が広がっている。ソファもピンク系で柔らかい雰囲気居心地よく感じられる。展示物も職員が作成した折り紙細工の額が飾られて目の保養になっている。トイレの男女区別が色文字と折り紙作品が貼られて利用者に分かりやすく工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはTVやソファを配置。皆様がい思いに過ごせるよう、配慮している。	共用スペースにはTVやソファを配置。皆様がい思いに過ごせるよう、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。	入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。	居室には介護用ベッド、エアコン、洗面台、収納庫が備え付けてあるが、利用者が入所前に使用していた筆筒やソファテーブル、仏壇等が置かれてある。家族の写真が貼られていたり、どの部屋も整理整頓されて居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の位置がわかるよう名札等を付けている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、入居者様の安全には充分配慮した建物になっている。	トイレや居室の位置がわかるよう名札等を付けている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、入居者様の安全には充分配慮した建物になっている。		